



# 新しい治療との出会いが その後の人生を開く

湯川リウマチ  
内科クリニック  
(武蔵野市境南町)  
院長 湯川宗之助先生



働き盛りの女性たちを悩ませる関節リウマチ。でも、痛くて辛い生活を続けなくてはならなかったのは昔のことです。「まず、正しい情報を手に入れて」と話す湯川宗之助先生に、今のリウマチ治療について聞きました。



**関節リウマチの治療法は進歩  
早期診断・早期治療で寛解も可能です**

関節リウマチというと、高齢の方の病気と思われるがちですが、実際は30〜50歳代の女性に多い病気です。原因はまだ特定されていませんが、患者さんの体の中でどのようなことが起こっているか、その病態は少しずつ分かっています。

免疫の異常によって、主に手足の関節に炎症が起こり、関節痛、関節の腫れ、朝のこわばりなどが生じます。進行すると骨や軟骨が壊れて関節が動かせなくなり、日常生活が大きく制限されます。また、炎症は関節だけではなく、関節は進歩がえたり、悪くなった関節部位を手術で取り除く適切な早期診断、早期治療が極めて重要です。



**リウマチ患者の半分以上が  
やむを得ず退職・休業・廃業**

リウマチが不治の病と聞いただけに、リウマチによいのは過去の話。関節リウマチの進行を抑える抗リウマチ薬や生物学的製剤など新しい治療薬が登場し、それに応じた診断基準と治療戦略も確立されています。しかし、それを活用した治療が全に行き渡っていないのが現状です。

リウマチ友の会（患者会）が5年ごとに実施している「リウマチ患者の実態調査・2015年リウマチ白書」によると、55・3%の人がリウマチのために「職業生活に影響があった」、51%の人が「退職・休業・廃業を余儀なくされた」と答えています。女性の30〜50歳代というと、家庭でも社会でも働き盛りの年代です。その